

第 15 回 滋賀県国民健康保険運営協議会の概要

1. 日 時

令和 4 年 2 月 15 日（火）

2. 開催方法

書面会議 （全委員に議事にかかる資料を送付）

3. 委 員

寺井委員、深尾委員、岡本委員、藤井委員、高橋委員、諸頭委員、
柳本委員、高山委員、足立委員、小林委員、瀬古委員、廣瀬委員、
西田委員、寺村委員

4. 会議の内容

議 事

（１）令和 4 年度 国民健康保険事業納付金等の算定結果について

（２）令和 4 年度国民健康保険特別会計の当初予算見積額について

5. 書面により提出されたご意見について

別紙のとおり

書面により提出されたご意見について

該当箇所	ご意見	ご意見に対する事務局の回答
資料 1 4 ページ	<p>歳出のうち、後期高齢者支援金は加入者が増えて令和 5 年度は反動による支援金の増加。 今後も増えていくことになるのでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、いわゆる団塊の世代といわれる方々が 75 歳に到達することにより国保から後期高齢者医療制度に移り始めています。</p> <p>これにより、後期高齢者医療制度の被保険者は当面は増加を続けると思われ、その点からすれば、後期高齢者支援金も年々増加することとなります。</p> <p>一方、令和 4 年 10 月から、一定の所得を有する後期高齢者については窓口負担を 2 割とする制度改正が行われます。</p> <p>これにより、後期高齢者医療制度の財源が一定増加しますが、後期高齢者支援金にどのように影響するか、現時点ではわかっていないところです。</p>
資料 1 5 ページ	<p>県国保特別会計における財源で、350 億円の納付金を各市町から徴収ですが、それ以外の国からの交付金、県からの交付金、特に国からの交付金の増減に何が影響されるのかわかりづらいと思いました。</p>	<p>資料 1 の 5 ページの図が現すことは、市町から徴収する納付金は、国等からの交付金では足りない部分ですから、交付金が増えれば市町の納付金は下がり、減ればその逆になるというものです。</p> <p>また、どのような理由や影響をもって国等の交付金が増えたり減ったりするかについては、概ね次のようなものとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期高齢者交付金が増えるとき（その逆が減るとき） <ul style="list-style-type: none"> 本県の 65 歳～74 歳の前期高齢者の割合が相対的に増えたとき 本県の 65 歳～74 歳の前期高齢者の医療費が増えたとき ・ 療養給付費負担金が増えるとき（その逆が減るとき） <ul style="list-style-type: none"> 本県の医療費、後期高齢者支援金、介護納付金が増えるとき ・ 財政調整交付金が増えるとき（その逆が減るとき） <ul style="list-style-type: none"> 本県の医療費が増えたとき 被保険者の所得が下がるなど、保険料を集める能力が下がったとき

書面により提出されたご意見について

該当箇所	ご意見	ご意見に対する事務局の回答
資料１ ６ページ	市町の納付金の按分方法（約５０％、３５％、１５％）の理論的根拠は何から来ているのでしょうか。	<p>資料１の９ページに記載していますが、国民健康保険料は所得割、均等割、平等割の３つの区分で構成しています。（ここでは資産割は除外します）</p> <p>なお、同ページに説明は記載していませんでしたが、これら３つの区分の割合は次のとおりとしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町が必要とする保険料のうち約５０％は所得割で集める ・〃 約３５％は均等割で集める ・ 約１５％は平等割で集める <p>この割合は、保険料は半分を応益割（受益を受ける被保険者人員や世帯数）、残り半分为応能割（保険料を支払う能力である所得や資産）としているためです。</p> <p>納付金の按分方法はこの割合と同じにしています。つまり、按分方法は、「市町が保険料を集められる能力と一致させている」とご理解いただければと考えます。</p>

書面により提出されたご意見について

該当箇所	ご意見	ご意見に対する事務局の回答
<p>資料 1</p> <p>10 ページ</p> <p>15 ページ</p>	<p>計算に用いた課税所得額、被保険者数、世帯数は明らかでわかりますが、それ以外の単価や率は何から来ているのか説明がほしいです。</p>	<p>資料 1 の 15 ページの A 市を事例に、A 市の医療給付費分の保険料設定をご説明します。 仮に A 市は次のとおりとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 市の必要な保険料 75.8 億円のうち、医療給付費に必要な保険料は 60 億円 ・ A 市の被保険者数は 84,000 人 ・ A 市の被保険世帯数は 50,562 世帯 ・ A 市の全被保険者の総所得は約 428 億 5,714 万円 <p>次のような算定になります</p> <p><均等割></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保険料のうち約 35%は均等割で集めるため、 60 億円×35%＝21 億円 ・ 21 億円を 84,000 人で集めるため、 21 億円÷84,000 人で一人当たり <u>25,000 円</u>となります。 <p><平等割></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保険料のうち約 15%は平等割で集めるため、 60 億円×15%＝9 億円 ・ 9 億円を 50,562 世帯で集めるため、 9 億円÷50,562 世帯で一世帯当たり <u>17,800 円</u>となります。 <p><所得割></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保険料のうち約 50%は所得割で集めるため、 60 億円×50%＝30 億円 ・ 30 億円を A 市の被保険者の総所得で按分するため、 30 億円÷428 億 5,714 万円＝<u>7.00%</u>となります。

書面により提出されたご意見について

該当箇所	ご意見	ご意見に対する事務局の回答
資料 2 4 ページ	<p>令和 4 年度の算定条件において</p> <p>①医療費推計 令和元年度比+5.6%の妥当性について</p> <p>医療費は令和 2 年度受診控えがあったが、元年度を上回る水準で推移しているため、令和 2 年度を除外して元年度を基に推計した。</p> <p>元年度比より高い水準で推計したと理解してよろしいか。</p>	<p>そのようなご理解で結構です。コロナ禍の受診控えの影響が大きかった令和 2 年度を除き、国保の一人当たり医療費は、高齢化の進展や医療の高度化等により年々増加しております。</p> <p>令和 3 年度が令和元年度を上回る高い水準で推移していることから、令和 4 年度の医療費についても、令和元年度より高い水準で推移することが見込まれますので、令和元年度の実績に過去の伸び率を乗じて推計を行いました。</p>
資料 2 4 ページ	<p>令和 4 年度の算定条件において</p> <p>②剰余金の活用</p> <p>令和 2 年度分精算により前期高齢者交付金収入が減少し剰余金を充てて抑制するとのことですが、令和 5 年度以降の納付金と交付金の動向、見通しを考慮されていると理解してよろしいか。</p>	<p>後年度の被保険者の負担を勘案しながら剰余金を活用しました。</p> <p>前期高齢者交付金は、県全体の歳入に占める割合も大きく、交付金の増減は納付金の増減に大きく影響します。</p> <p>今後の動向を精緻に見通すことは困難ではありますが、交付金の精算等による後年度の納付金の急増に備えて、今回の算定では剰余金を全額活用するのではなく、一部を留保しております。</p> <p>2 年後精算という交付金の構造的な仕組みにより、被保険者の負担の急増を招くことがないよう、市町の意見を伺いながら、今後も剰余金の活用方法を検討していきます。</p>

書面により提出されたご意見について

該当箇所	ご意見	ご意見に対する事務局の回答
資料 2 8 ページ	<p>収納率での割り戻しについて質問させていただきます。</p> <p>市町からの納付金決定のためせつかく綿密な納付金計算方法を駆使し余剰金活用や激変緩和措置を利用しているにもかかわらず、割り戻しを行うと正当に納付している県民に納付していない方の保険料を肩代わりさせることになりませんか。</p> <p>だとすれば収納率は 100%が理想だと思います。収納率を 100%に近づける努力や現在行っている策があれば教えてください。</p>	<p>ご意見のとおり、例えば収納率が 95%の市町村では 95%の被保険者の方々が全体の保険料を負担していることとなります。</p> <p>市町は、滞納ある場合は納付相談等を行うとともに、必要に応じて差押えを行うなど、滞納削減に向け日々努力をされているところですが、現実問題として収納率 100%は困難なところです。</p> <p>なお、収納率の向上を図るため、主に次のような取組を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口座振替の推進、クレジットカード払いなど幅広い納付方法の提供 ・徴収アドバイザーの活用や研修実施による職員の資質向上 <p>また、本県の令和 2 年度の収納率は 95.6%であり、近年は毎年少しずつですが上昇を続けているところです。</p>
資料 2 10 ページ	<p>市町ごとの伸び率が 0.56%から 8.55%と大きく乖離しています。各市町への説明と理解が得られる工夫があるのでしょうか。</p>	<p>各市町の伸び率に乖離が生じる理由については、所得金額や被保険者数の増減など様々な理由がございますが、特に激変緩和は年々段階的に規模を縮小しており、その影響が大きいものと考えております。</p> <p>これについては、年に複数回開催する県と市町との会議の場を通じて、激変緩和の規模を段階的に縮小するスケジュールや、シミュレーションによる影響額を示すことで、各市町の理解を得られるよう県として努めてきたところです。</p>

書面により提出されたご意見について

該当箇所	ご意見	ご意見に対する事務局の回答
全体	<p>平成 30 年より国民健康保険事業の都道府県単位化に伴い、国保の財政を安定化させようと努力されてきました。</p> <p>しかし、今回の新型コロナウイルス感染症に伴う影響により、今後の納付金算定方法に影響がでるのではないかと心配します。</p> <p>特に、新型コロナウイルス感染症の影響により被保険者の収入が減少することが心配されます。</p> <p>剰余金を活用するとあるが、基金や決算繰越額かと思うが、各市町の財政状況もあるが、国保保険料が激変しないよう考慮していただきたい。</p>	<p>コロナ禍に伴う国保財政への影響ですが、受診控え等により、令和 2 年度の医療費は令和元年度より大きく減少しましたが、令和 3 年度は再び増加し、令和元年度の水準をやや上回るような状況となっているところです。</p> <p>被保険者の所得ですが、令和 2 年の所得は令和元年と比較してやや減少しましたが、コロナを理由として所得が一定以上減少した場合には保険料を減免する制度を設けており、その財源は国の交付金が充てられています。</p> <p>したがって、現時点では、コロナ禍によって国保財政や被保険者の保険料等に大きな支障が生じている状況にはありませんが、今後のコロナ感染の状況に応じ、基金や剰余金を活用しつつ、保険料が激変しないよう安定した国保財政に努めたいと考えます。</p>
全体	<p>今年度は剰余金を使用して激変緩和していただいておりますが、今後も少子高齢は治まらないと感じます。</p> <p>今後の保険料の上昇はどのようになるのでしょうか。</p> <p>県内どの地でも同じように医療を受けられるのは嬉しいのですが、A市の例だと 360,640 円とのことなので、収入も増えない中、かなり大変なことかなと思います。</p> <p>子どもが成長するまで約 20 年かかります。このシステムを維持するためには、「少子」のところから考えないといけないとも思います。</p>	<p>ご意見のとおり、少子高齢化の進展を背景とした人口減少や過疎化などにより、今後は市町村単独での国保運営が困難となることが想定され、平成 30 年度に行われた国保の都道府県単位化は、その対応と考えています。</p> <p>各都道府県は、こうした国保の都道府県単位化さらには国財政支援の拡充により安定した財政運営に努めているところですが、少子高齢化や医療の高度化により一人あたり医療費は増加の一途をたどっており（令和 2 年度のコロナ禍を背景とする一時的な医療費の減少は除く）、今後、保険料を継続的に据え置いていくことは困難と考えています。</p> <p>こうしたことを踏まえ、当県としては、国保の制度改革が都道府県単位化に終わることなく、被用者保険を含め全ての医療保険制度の全国レベルでの一元化に向けて努力していかねばならないと考えています。</p>

書面により提出されたご意見について

該当箇所	ご意見	ご意見に対する事務局の回答
全体	<p>市町が独自に実施する医療助成、福祉施策としてとられる助成について、その市町格差は、今後どのように考えられていくのかと思いました。</p>	<p>本県では福祉医療費助成制度として、乳幼児、重度心身障害者（児）、老人、母子家庭などを対象とした医療費助成制度が実施されています。</p> <p>この制度では、対象者や助成額の範囲などについて、各市町が共通とする基準がありますが、これに加えて、市町が独自に対象範囲を拡大しているところもあるのが実情です。</p> <p>福祉施策として、市町ごとに医療助成を行っているが、最近、県と市町との会議の場などにおいて一部の市町からその基準の統一について意見が出ているところです。</p> <p>市町の独自施策としての面もありますので、単純に統一へは進みませんが、国民健康保険制度とも密接に関連するため、市町との議論を続けていくことを考えています。</p>